



## 地区指導者育成セミナー 基調講演



RI元理事

みなみ その よし かず  
南園 義一 (防府RC)

### ■演題

# 「ロータリーの目的」とRI戦略計画

### ■プロフィール

〔所属〕

RI第2710地区・防府RC

〔職業分類〕

胃腸病院

〔学歴及び職歴〕

1955年 千葉大学医学部卒業

1979年 防府胃腸病院院長

1998年 (財)防府消化器病センター理事長

現在 (財)防府消化器病センター顧問

〔団体歴〕

1994～96年 防府医師会会長

1993～10年 防府市国際交流団体連絡協議会・会長

〔ロータリー歴〕

1978年 5月 防府ロータリークラブ入会

1991～92年 防府ロータリークラブ会長

1997～98年 RI第2710地区ガバナー

2000～02年 RI国際協議会研修リーダー

2001～03年 RI・ロータリー財団 RRFC

2004～06年 RI理事

2006～08年 RI会長指名委員会委員

2007～13年 RI戦略計画委員会委員

2008～11年 RLI日本支部委員長

2009～13年 TRF 恒久基金日本委員会アドバイザー

### ■ロータリー関係・表彰

メジャードナー、マルチプル・ポール・ハリス・フェロー、  
マルチプル・ベネファクター、米山功労者、遺贈友の会会員、  
ロータリー財団功労章受章、山口県選奨 その他



今日は、地区大会おめでとうございます。井手ガバナーはじめ地区の皆さんに心から敬意を表したいと思えます。私はこの地区大会にもう2、3回参加させて頂いて頂いて、色んな思い出があります。ロータリー100周年の時には、今日調度おいでになりますが、立花パストガバナーの時に、柳川にお邪魔しまして、あの当時ノーベル賞を貰われた小柴先生と、柳川の船下りの船に乗せて頂き、時間がとてもあるものですから色んな話をし、非常に印象深い記憶があります。

その2710地区、私は実は鹿児島出身で、日頃から九州の地区には非常に親しみを感じていますし、勿論九州の経済界の中核の地ですので、日頃から素晴らしい地区だなと思っている所です。先程、井手ガバナーや井上会長代理から色んな話がありました。しかし、私が思うに、本当に今ロータリーが直面しているものは何かという事を、我々は本当に理解しなくては行けない。しかし、本来100年の本質を忘れて、それを逸脱した形のロータリーの活動というものはありませんので、やはり、一番の根元をしっかりと踏まえた上での、将来へ向けての考え方という事について話をしたいと思えます。

歴史とは、過去と現在の対話であるという言葉がありますが、まさしくそうであろうと思えます。しかし、戦略計画は、現在と未来との対話とご理解を頂きたいと思うわけです。勿論、その前の歴史は踏まえた上での基盤とし

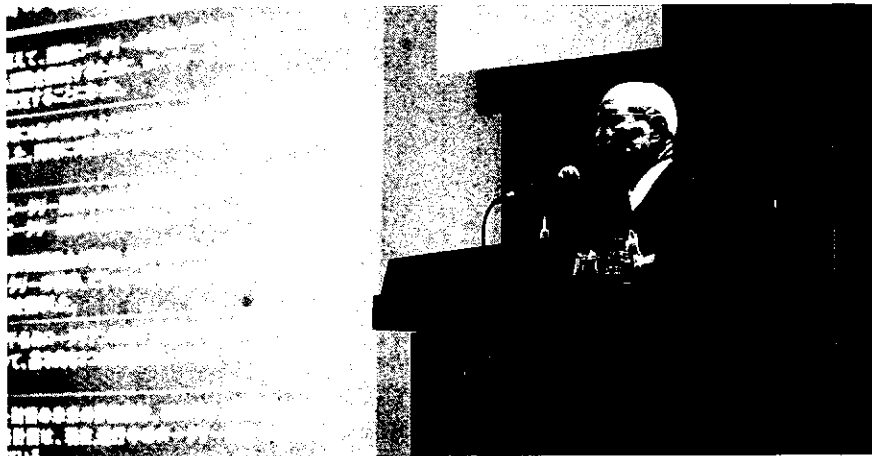
ての話であって、我々の目の目標を、ちょっと将来の方へ向けて考えようではないかという事です。そこで、私はロータリーの歴史をただ漠然と考えるのではなく、ある程度時代的に考えてみた方が良く、自分で分け分けをしてみました。すると、調度間々が25年で区切られて、うまく考えが出来てきました。1930～1935年に組織理念が確立されて、殆どこの25年間で基礎が出来ていると言えます。そして、世界大戦を踏まえて、1955～1960年を過ぎてくると、活動の視野ももっと広がってきて、青少年とか新世代とかの活動が広がってきました。私は調度1987年にロータリーに入ってもらいました。今から35年前ですが、その時に3Hプログラムというのがあり、このプログラムを契機として人道的な奉仕活動が更にまた広がってきたような気がします。例えばポリオにしても、世界平和のフェロの活動にしても、段々と国際的な視野になってきたという事が言えると思えます。

ところが、あえて変革期と私は書きましたが、この時期になると、ロータリーの会員が劇的に減少してくるのです。例えば、全世界で130万あったロータリアンが、今では大体120万。10万も減っています。日本では13万人あったロータリアンが、今では9万足らずになっています。何故でしょう。15年位の間、年間3000～4000名ずつロータリアンが少なくなっているのです。だから、何故かという事を真剣に考えないと、ただ、ロータリーは良い

よ、昔は良かったよでは、そういう考え方のままでは発展性はないという風な考え方が、だんだん出てきました。そこで、戦略計画というものが打ち出されて、1997年にDLPが始まりました。その時には、色んなガバナー会では、要するに、ガバナー補佐というのは、ガバナーの権限を侵すものではないかという懸念があって、喧々囂々でした。CLPは2003年頃から始まりました。これも奉仕活動の4大奉仕ではおかしいじゃないかという疑念があって、実はそうではないのですが、そういう誤解があって、そして、色んな意味での混乱もありました。それを2001、2002、2003年頃に、何とかしないと行けないと、国際ロータリーでも非常に真剣に論議をされて、100年の歴史というのは素晴らしいが、未来や将来に向けて我々はどうしないといけないのかを考えないと行けない、そういう事で、この指定審議会では、特別委員会というのが出来ました。戦略計画委員会というのは6名の委員ですが、それは特別委員会として是非活動してほしい、それには、3年毎にロータリアンの意見を聞き、その意見を集約した上で、1つの具体的な計画を出して行って欲しい。これが、初めの戦略委員会の目的です。

2007年になると、今まで試験的なプログラムであった、財団の“未来の夢計画”というものが指定審議会承認されて、それを、戦略計画と未来の夢計画を2つの柱にして、2010年頃から、1つの大きな具体的な目標で

スタートさせようではないかというのが、今までの経過です。この計画の1番の根底にあるのは、ロータリーの活動とは何か、それを将来どういう方向に持って行ったらいいのかを皆で検討し考えようではないか、それが唯一の願いです。是非その点を誤解のないように御理解頂きたいと思います。それで、出来上がったこれをご覧になったこともあるかと思いますが、これがいわゆるオフィシャルな戦略計画のアウトラインです。真ん中に、地域の人々の生活を改善したいという情熱を、社会に役立つ活動に注いでいる献身的な人々の世界的ネットワークという言葉があります。



これは、本来はロータリーのビジョンだったのです。ビジョンとは何かというと、夢です。将来への夢をどうやってもっていかうかという風な考え方で作られた文章です。私どもの委員会では、2015年、2020年、そしてまた50年100年先にどういうビジョンを持つか、どう考えるかというテーマを出されて、6名の委員で必死になって考えました。これはあくまでもビジョンですから、

こういう解釈でいて欲しい。これをホリゲル・スミスさんというRI会長の時に、本質という考えに変えましたが、私は本質という言葉はあまり好きではありません。あくまでもビジョンです。そして、上の3つと下の5つですが、下の5つは、要するに中核的な価値観です。

従来、奉仕・親睦・多様性、先程から色々井上さん或いはガバナーが言われますように、この5つの項目、そして、3年ごとにロータリアンの意見を聞いた中で出てきた具体的な目標は何か。それが、クラブの活性化、人道的な奉仕、そして公共の問題、この3つが、今度は具体的な実践項目

の目標として出されてきました。従って、この戦略計画の中核・骨格は、理念と実践項目の2つだと御理解頂いたらいいと思います。ですから、理念と実践項目という考え方を十分に理解し、咀嚼して考えて頂きたいと思います。

そういう計画が出て、今年の7月に、実は先程会長代理が言われましたが、ロータリーの綱領が目的に変わりました。それをロータリーの友に書い

ておきましたが、その時に色んな意見が寄せられました。従来の考え方と新しい考え方をどう組み合わせて考えたらいいのかという意見があったのです。ロータリーの目的というのは、これは綱領だ、内容は変わりませんよ。しかし、下の方のこれは、あくまでも新しい考え方が取り込められますよ、と。

さっき言いましたビジョン、使命、中核的価値観、こういうものがロータリーの理念を構成しているという事です。真ん中にある調和の奉仕というのは、単なる奉仕ではなく、私共が100年の間に培ってきた色んな理念、生命、定款条約を含めた意味での総合的な超我の奉仕という表現とお考えになって頂きたい。そしてそれを周りが取り持っていくという考えでいったらどうかという事です。先程の話の、これがロータリーの目的です。いちいち読んではいられませんが、後でゆっくり読んでください。表現がかなり優しくなっています。私はそのまとめ役を頼まれて、元理事の皆さんにも個々にご意見を伺って、それをまとめたものがこの言葉です。

一番大事なものは、この、目的という所です。もう1つは、この奉仕の理念という所が変わった所です。主文ですから。そこが非常に大事な所で、日本のロータリアンの皆さんにかなり色々な意味でご意見を伺った所、5~6割は、“目的”にして良いと(言われました)。また、このロータリーの理念には色んな意見がありました。勿論総括的には半分以上の方が、“良いです

よ、ロータリーの理想を理念にしても「良いですよ」という意見がありました。しかし、色んな思いがあると思うのです、このロータリーの理想という言葉の中には。実践もあれば、理念を大事にする人もあれば、哲学的な概念を大事にされる方あれば、もっと総合的な活動をイメージされる方もある。それは良いと私は思います。とりあえず理念にはなっておりますが、どうぞ奉仕の理想という言葉を使いたい方は、使って頂いて結構です。それなりに自分の思いがここに込められている、しかし、総括してまとめる場合はまとまらないので、理念になりました。

それと、1~4の中で一番拘ったのは、職業人という言葉です。辞書をひいたらわかりますが、辞書の中には職業人という言葉はありません。これは、ロータリー独特の言葉だという事です。せじ詰めれば、ロータリーの特徴を表している言葉がこの職業人で、非常に大事な表現だと私は思っています。元理事の皆さんにもご意見を伺った所では、是非この職業人という言葉を残してくれ、これがなくなると、例えば「奉仕の理念で結ばれたロータリアンが」でもいいのではという意見もありましたが、やはり、職業人という言葉が大事だという事になりました。あとは皆、大体同じような表現です。

先程言った「本質」ですが、これは、わかりやすい形にしようという事で、こういう風になりました。読んで頂ければわかると思います。それから、

“使命”ですね。これは後からも言いますが、大変大事です。ロータリーの特徴をちゃんと表している言葉です。1つは、“他者に奉仕し、高潔性を推進”これが特徴です。2番目は、“事業と専門職種、及び地域のリーダー”。3番目は“世界理解と自然平和”。この3つのファクターが込められている事で、この言葉は決して消してはいけません。これは、ロータリーが国際ロータリーの方で提唱してきた表現です。

ただ、国際ロータリーは、活動、発展とって、内容や本質を疎かにしていると思われるかも知れませんが、決してそういう事はありません。私はもう6年間も委員をやっていますが、毎回本質の論議を一生懸命やってきました。しかも、そういう物から逸脱しないように懸命に努力して今までまとめてきているわけです。特に、この中核的価値観は、さっき井上会長代理が言われましたが、親睦奉仕とか高潔性というのは、ロータリー本来の1つの大きな要素です。

皆さんもこれは良くご存じで、私があえて今解説をする必要もありませんが、あえて解説すると、“多様性”という言葉があります。その次に、“リーダーシップ”という言葉。この多様性とリーダーシップを、是非もっと新しい感覚で理解して頂きたいと思えます。

私は2003年の時に理事エレクトでして、その後4、5年を、田中作次会長と一緒に2人で理事をやりました。その時も、100周年ですから色んな論議をしましたが、多様性の声明というものを

を出しました。その時は2、3日かけて、多様性とは何かという論議をしました。ロータリーは、例えば、信条、言語、文化と色んな意味で社会の違いというものを超越した寛容という言葉やさっき使われましたが、私も全く同感です。

ポール・ハリスが言った寛容というのは、そういう違いを超えた1つの善意であろうと、そういう風にも解釈できると思うのです。ですからそういう意味で、是非、多様性とリーダーシップを御理解頂きたい。単なる多様性というものは、性的或いは言葉の違いではなくて、皆さんの考え方の違いを、或いは1つ1つのクラブでの活動の違いも全部認めて、色んなものがあっていいじゃないかという考え方で、そういう多様性がないと、パワーが出てきません。

先日新聞を読んでいたら、ある大学の学長さんが、「これからの大学は多様性がないといけません。ですから入学試験は、多様な学生を募集する方法を考えます。単に予備校に行くと、それが全部入学試験でチェックされて入ってくる学生は面白くもなんともない。学生は、大学に入ったら燃え尽きています」。なるほど、と私は思いました。ロータリーも、燃え尽きないで下さい。多様性を尊重して下さい。女性の存在も認めて下さい。お年寄りも若い人も全部認めましょう。大体、元来職業分類というのは、多様性を認めた上に出てくる分類です。それを皆さんが今考えて活動しているかどうか

か。その辺に問題がある。だから、高潔性も大事、親睦奉仕も大事、しかし、多様性とそしてリーダーシップ。皆さんは素晴らしいリーダーシップを一人一人がお持ちですから、それをどうして発揮しないで烏合の衆としてただ親睦と昼飯を食べに例会に来られるのでしょうか。今、井手ガバナーが言われたように、もっと実際に地域社会の中で、本当に地域を活性化して発展させるには何が大事かという事を、皆さんが持っているスキルを使って、それなりの活動というものがあれば、そこのロータリークラブでは必ず評価されると私は考えます。そういうリーダーシップであって欲しい。別に1人よがりになれと言っているわけではないのです。その辺の所を是非理解して頂いて、そして、この中核的価値観というのはロータリー理念の根本なのだという事です。

さて、一番中心になるのは、“調和の奉仕”ですので、コリンズの調和の奉仕もありますし、シルトンの“最も良く奉仕するもの”或いは、4つのテスト、色んな標語や一つの声明がありますので、是非そういうものを総括して、そしてお互いに理解しあってやって頂きたいと思います。4つのテストというのは、初めの頃、日本のロータリーでは色んな訳を応募したのですが、ご存知ですか？そしてそれを皆で選択して、この4つのテストの日本語訳が出来たのです、皆の為になるかどうか。これは東京クラブの出した訳語が選ばれたものです。やはりこういうものが

1番身近にある1つの考え方として、きちっと理解して自分たちのものにしていかないとはいけません。そういう事がこれからも問われるわけです。

私は思うのですが、理念と実践のバランスという事を絶えず考えて欲しいのです。バランスは絶えず動きまわります。或る時は理念が大事なプログラムもありますし、ある時は実践が大事な時もあるのです。それは、ケースケースで考え方も流動的に、そしてそれをもっとパワフルな形で持っていくと考えられるのが奉仕と理想という考え方ではないかと、日頃からそう思っています。

今度は、ロータリーの実践に入っていきます。一体ロータリーは何を考えているのかという事です。ここにあるのは、クラブの原点に戻りましょう、効果的な奉仕活動をしましょう、そして、公共のいろんなイメージを高めましょうというものです。これは案内が考えたものではないのですよ。全世界120万人のロータリアンが世論調査をして、それをまとめて、それをスワット分析したものです。スワットというのは、ストロングウイークオポチュニティという頭文字なのですが、そういう項目に分けて世論調査をして分析して出てきた結果なのです。だから、RIが強調しているものですが、全世界のロータリアンがこういう事が必要と考えている原点だと思って頂いたら良いです。

この1番目の“クラブのサポートと強化”は、こういう形で表現されています。読むのは大変でしょうから、あえて

言うと、1番大事なものは、“クラブの柔軟性と刷新性”これを自主的に皆さんが柔軟におやりください、という事です。RIが決めた事をいやいやながらやって、プログラムを選択して、おもしろくないじゃないか、という考え方はやめて下さい。自分たちで考えて、自分たちでこの地域社会で何が大事かという事を検討して参加して実践しましょうよ、というのが、刷新性と柔軟性です。

もう1つ大事なものは、“多様性”です。会員構成の多様性は、会員増強に繋がる1つの大きな考え方です。ここで私が強調したいのは、柔軟性と多様性をクラブで尊重して、皆で考えましょうよ、という事です。プログラムは、リソース、要するに、上の方から何か降ってきて強制された考えはやめましょうという事です。自分たちでリソースを探しましょう。これをやろうというものを。そしてそれを継続してやらないと意味がありません。単発では地域社会でのインパクトは少ないのです。色んな意味で真剣に、自分のクラブで、皆で考えて下さいというものです。

ですから“効果的な奉仕活動”というのがありましたが、効果的な活動って何ですか？とよく聞かれますが、すると「何でしょうね」と言わないといけなくなりますから、あえてここにこういう要点を挙げておきました。要するに、現実的な目標、測定可能な目標でないといけません。夢みたいなプログラムはやめてほしいという事です。今度の未来の夢計画でも、選定計画の要

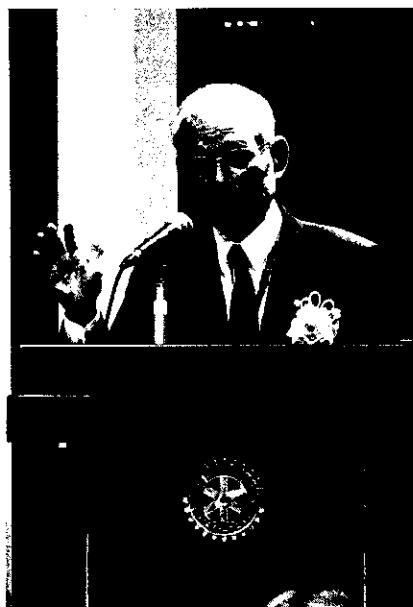
素として、やはり測定可能な、というのが必ず入っています。だから測定不可能なものは、恐らく認めてもらえないだろうという事になります。

つまり、こういう事が非常に問われているのです。しかも、新しい使用可能なリソースを効果的にするという事、そして地域社会の人達が、皆さんがやった活動をどういう風に評価しているのかという事を考えなさい、相手の反応も考えながらプログラムをやりましょう、それがうまくいくものは効果的なプログラムと言えます。

ロータリーでは、具体的に色んなことをやりました。ロータリーコーディネーター、或いは、試験的プログラム、或いは、地域的な、この地域的なというのは、もっとグローバルな意味で現在実践中ですが、例えばアジアでの、例えば担当理事の領域では会員増強計画では何をやりますかという事が、今非常に問われています。それからEクラブです。これは是非お入りになるようお願いしたいのは、単に例会参加の方法がEクラブでITを使っただけの参加であって、他の活動は全然変わりません。社会奉仕も職業奉仕も国際的な奉仕も全部変わりませんので、私は、Eクラブの皆さんは情報が非常に早く入りますから、その他に、一体ロータリーとしてクラブとして何をやるのだという事を、是非実験してほしいとお願いをしておきます。

実は、私のクラブは2710地区ですが、先月Eクラブが1つ誕生しました。私はその祝賀を述べてきましたが、E

クラブを?離れなさんな、何をやるかを皆で話し合ひましょう、それが評価されて初めてクラブは評価されるし、地区の活動が活発になるし、そのけん引力になって欲しいのです。そういう事をお願いしてきました。



2番目です。“人道的な奉仕活動”というのは、これからのロータリーは活動の焦点をある程度絞っていかうとしていきますから、その活動目標がちょっと絞られています。言えるのは、重点分野を決めたという事です。そして、強調されているのは、新世代への取り組みをどうするというのが大きな問題です。この2点です。これはロータリー財団の重点項目です、実は。

しかし数年前から国際ロータリーの重点項目と一緒になりました。この“親善、教育、貧困”これは従来の奉仕活動の1つの目標ですが、将来の人道的奉仕活動の中では、ポイントを決めておこうというものです。健康問題は勿論ですが、教育、貧困、最後

に平和と紛争処理、これは究極の目的として是非残して頑張っていこうと、そういう考え方です。大変大事です。

そして、1番大事なのは、新世代の子供たちへのロータリーの働きかけです。これは、書いてありますが、2012年5月、理事会は、新世代に対する色んなビジョンと哲学を理解する、その新しい実施する計画を開発し直そうではないかと提唱しました。2013年7月から有効になる、この“新世代交換プログラム”も、これから内容的にかなり変わります。

もう1つは、年齢的な区分けです。元来15歳～21歳という考え方がありましたが、これをもっと新世代という言葉にして、もう少し大きな意味でグローバルな事に対象として活動を進めたらという意見もあります。

青少年の交換・活動というものは非常に大事と受け止めています。考えて頂きたいのは、国際ロータリーのプログラムがありますが、そのプログラムのほとんどはインターアクト、ローターアクト、ライラ、RCCなのです。全部青少年に関する、しかも育てていくプログラムしか残っていないのです。WCSは財団に移しました。だからマツチング・グラントもWCSも、色んな考え方は、全部ロータリー財団のフューチャービジョンに移してあるのです。そこを理解してほしいのです。

財産のフューチャービジョンは、従来考えてきた6つの重点項目と言いましたが、そういうものも目標を決めよう、

そして、地域・国際社会のグローバルな分野とローカルな部分に分けましょう、そしてグローバルな意味での国際ロータリーが関与する問題は、皆で考えて提案し、実行していきましょう、それには補助金を出します、しかし、新築補助金は皆さんで考えなさい。地域社会の財団委員でお考えになって自由に採択して実践して欲しい、それにはDDFの半分は差し上げますからという風に決まったのです。

従来のロータリーの財団に関する考え方が根本的に違っているという事を、ここで認識してほしいのです。ただプログラムを作って、やってください、お金を出しますと言っているのではなく、皆さんが地域・国際社会で何をしたいと思うか選択しなさい、それを自分たちで決めるのが一番大事で、それはクラブの自主性であり、柔軟性であり、将来性に繋がるのです。

だから、今度の未来のフューチャービジョンの考え方は、単なるお金を出して誰かがやってくれるという考え方ではなのです。そこを理解して下さい。将来は、恐らく国際ロータリーのプログラムと財団のプログラムは合体するであろうとは思っていますし、委員会でもそういう話は多々出ています。

ではどういう形で合体させるか。例えば、アクショングループというプログラムがあります。これは全世界の、結核とかエイズとかそういうプログラムを、自由際限なしに行動するものです。そのアクショングループの中から、私は、

将来のビッグプログラムが出てくるであろうと思います。財団の方のフューチャービジョンは今年から始まります。そして、実際に実践してロータリー財団100周年が2017年に来ますが、そこ位がその実践の目標・評価が出てくる。それを1つの土台にして、今度は活動形態を、或いは組織の内容を切り替えていって、新しい戦略計画を実際的なものにしていこうという考え方がありますので、御理解下さい。



そして新世代の問題は、実を言うと指定審議会にて提案が出ています。クラブの定款には新世代が入っていますが、国際ロータリーの定款には綱領の中に4つしか入っていませんから、今度今の目的の中に5つ目が入ってくると思います。多分承認と思いますが、先程言ったビジョンと哲学というものをもうちょっと考え直して、真剣にこれから取り組もうとしています。私どもは、インターアクト、ローターアクト、ライラ等々ですが、形骸的になっていま

せんか?大体例会においでになっていませんか?そして、若い人たちで話し合い、交流は行なわれていますか?行われていないと私は思います。

私はいつも言うのですが、あるクラブに行ったら、周年行事でインターアクトをやりますと言うから、「周年行事をやめなさい、山に行つてどんぐりを植える行事でもされたらどうですか?そして山に登つて木を植えながら、若い人と話し合いなさい、あなた達は何を考

えている?おじさん達をどう思っているの?」それが大事だと私は思うのです。そういう事をもう1度、活動内容・そういう区分けを考え直して、もっと効果的なものをしていこうという機運が今は生まれていると思いますから、今度特定審議会の結果を踏まえて、更に5年か10年の間に新世代に対するロータリーの取り組みを十分考えていけないといけません。

3番目は、公共イメージです。これはみなさんご存知ですから、少し簡略に



申し上げておきます。1番大事なのは、ロータリーのブランドを、表現して統一して評価するという事です。是非頑張りたいと思います。私どもが検討したのは、長期的なソーシャルネットワークの考え方、或いは短期的なプログラムの色々なロータリーのイメージです。そういうのを再生、強化。色々なことを考えて今検討しています。これも皆さんのクラブで、是非自分たちの活動を認識してもらう為にはどうしたらいいかという事です。決して自己宣伝やそういう風には考えずにやって頂きたい。そして、こういう戦略計画が実施される時には、今頃の色々なメソッドをお使いになって、そして、具体的な計画を立ててやって欲しいと思います。

ジーゲル・ゲールという調査の会社があります。全世界的な調査機関です。かなり規模が大きく、何十万という世論調査をするのですが、その報告がロータリーにきました。それで戦略計画を皆で喧々囂々検討したので。すると、こういう事を言って来ました。ロータリーとはいったいどういう所かという事を皆さんご存知ない。1つは、ロータリーは職業の専門分野で、

多様で多彩な多面的な見方が出来る団体だ、他にはそういう団体はありません。

もう1つは、指導力と専門性を生かして、地域社会で色々な形の問題に取り組む事が出来る団体です。しかも、責任感を持つ社会のリーダーたちの集まりであるから、その意味では非常に効果的だという事です。

そして、全世界に地域社会に一番影響力を持っているのはロータリーだ、こういう報告でした。私どもは非常に驚愕しました。従来あったような事を、ポール・ハリスの言葉から全部リストアップして、そして3日間かけて論議しました。勿論理事会でも論議しましたが。そういう所で、ロータリーの職業と専門職種という特徴、しかも社会のリーダーシップを持っている人たちの集まりであるという事、しかも多面・多岐にわたる職業が全部統括されている団体、この3つは他にない特徴です。だから、その特徴を生かしていきましょう。大変私どもも考えさせられる、またRIの方でも、委員会やスタッフの皆さんも、改めて、職業奉仕の大事さ、或いは専門職業、色々な意味でのリーダーシップの特徴をもっと考え直さないといけない、という事になりました。

そういう事で、論議を私なりに簡単にまとめると、人への思いや調和の奉仕、人道、職業人と社会責任、社会理解、こういう形にまとまっていくのだろうと思います。これは従来あった事で、どこかで聞いたような事なのです

が、こういう事こそが、今認識し直さないといけないのです。単なる方法におぼれて引きずられていくのではなく、本当に何をやるのだという事を皆で考えようではありませんか。それが、こういう簡単な言葉で表現できます、という事です。ですから皆で考えながら、もっと大きな事を真剣に考えて頑張りましょう。

ロータリーは、そういう意味で、非常に未来がある。未来に夢を思い描きましょう。そして地域社会や国際社会のニーズに対応する成果をあげましょう。そして、世界平和を、或いは社会理解を求める大きな団体です。平和を求める団体をどう実践していけばいいのか、そういう事を考えると、財団の目標や内容、国際ロータリーの考えている事が、真剣に皆で論議したものであるという事を、是非ご理解頂きたいと思います。決して皆さんが知らない所で風船のように浮いていくようなロータリーの方向性をただ空々しく言っているわけではありません。皆さんの考えている事を参考にして実践して、実践したことの評価を、是非地区・国際ロータリーにも伝えて頂きたい。それを皆で検討して、更にいいものにしていく、それをするのがロータリーコーディネーターの役割だし、ガバナーの皆さんの役割です。

親睦も奉仕も大事ですが、未来を見つめた、地域社会の為になるロータリーであって欲しいと願いながら話を終らせて頂きます。お世話になりました。